

| | | | | | | | |
|------------|--|------------------------------------|-----------------|------|-----|---------|-----|
| 科目コード | N20202 | 科目名 | 看護学基礎演習（看護事例演習） | | | | |
| 履修区分 | 必修 | 開講期 | 2年後期 | 授業回数 | 15回 | 単位数 | 1単位 |
| 担当者 | 矢野美紀 | | | | | | |
| 授業の概要 | 『看護学基礎演習1』で学んできた『人体の構造と機能』について復習すると共に、より臨床医学に重要な「構造と機能」を簡明・適切に提示しながら、疾病の原因、疾病の成り立ち、病態を学修する。特に、臨床で遭遇する頻度の高い疾患を中心に、診断・治療・看かた等ケーススタディを用いた問題演習を多く取り入れることで、看護実践の基本となる知識を修得する。 | | | | | | |
| DPとの関連 | 平和を希求する姿勢を身につける | | | | | | - |
| | 豊かな教養を身につける | | | | | | - |
| | 高い倫理観と責任感、他者との信頼関係を築き協働できる能力を身につける | | | | | | - |
| | 看護専門職者としての役割を認識し、看護の実践に活用するための専門的知識を身につける | | | | | | - |
| | 地域に生活している人々に対して深い関心と理解する姿勢を身につける | | | | | | - |
| | 自らの学びを通じて人々や地域社会に積極的に関わり貢献しようとする意欲を身につける | | | | | | - |
| | 多様な保健医療福祉の場での多職種との連携で、看護専門職として機能を発揮する能力を身につける | | | | | | - |
| | 社会情勢や人々の健康に関する課題に沿った看護のニーズを意欲的に探究する姿勢を身につける | | | | | | - |
| | 異なる文化や多様な考えを受け入れ、看護職者としての価値観を形成する能力を身につける | | | | | | - |
| 到達目標 | DP：ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）＝卒業までに身に付けるべき資質・能力 1. 「人体の構造と機能」の分野における国家試験の出題基準に基づく項目に関する理解ができ説明ができる。 2. 「人体の構造と機能」の理解をコアとし、看護学への知識獲得への発展をさせることができる。 3. 2年次の国試に関する学修を手掛けることで、早期からの国試対策への意識が高められる。 | | | | | | |
| 履修上の注意事項 | 『人体の構造と機能』と運動し、国試対策の一環である科目である。その強化を図るため個人作業および口頭試問等の演習を主体とすることから、各自で積極的に取り組むことが求められる。 | | | | | | |
| 授業計画 | 回数 | 講義内容【担当教員】 | | | | 事前・事後学修 | |
| | 1 | ガイダンス・本科目の意義・復習（確認テスト）・目標設定【矢野美紀】 | | | | | |
| | 2 | 力試しテスト【矢野美紀】 | | | | | |
| | 3 | 国試対策講座【矢野美紀】 | | | | | |
| | 4 | 演習：強化テストの準備学習【矢野美紀】 | | | | | |
| | 5 | Web確認テスト（骨格筋系）【矢野美紀】 | | | | | |
| | 6 | 解き直し・テスト準備学習・人体の構造と機能の復習/強化【矢野美紀】 | | | | | |
| | 7 | Web確認テスト（循環器系）【矢野美紀】 | | | | | |
| | 8 | 演習：国試対策強化1《課題学習》【矢野美紀】 | | | | | |
| | 9 | テスト 分析結果・強化学習【矢野美紀】 | | | | | |
| | 10 | 演習：国試対策強化2（事例学習：脳梗塞）/勉強法【矢野美紀】 | | | | | |
| | 11 | 演習：国試対策強化3（事例学習：心筋梗塞）/勉強法【矢野美紀】 | | | | | |
| | 12 | 演習：国試対策強化4（事例学習：COPD）/勉強法【矢野美紀】 | | | | | |
| | 13 | Web確認テスト（総合問題）【矢野美紀】 | | | | | |
| | 14 | テスト 分析結果・解き直し・演習：ノートづくり（まとめ）【矢野美紀】 | | | | | |
| | 15 | まとめ【矢野美紀】 | | | | | |
| 成績評価方法 | 定期試験50%・課題提出物の評価30%・授業内のワークシート20% ただし、受験資格を満たしていない場合は評価の対象としない。 | | | | | | |
| 教科書 | 書名・著者（出版社） | | | | | ISBNコード | |
| | 「なし」「プリントおよび1年次購入の人体と構造と機能のテキスト使用」 | | | | | | |
| 参考書 | | | | | | | |
| 教員からのメッセージ | 講義後には、配布した資料はできるだけその日のうちに復習し、しっかりファイル保管してください。わからないところはそのままにせず、講義中、講義終了後などに質問してください。対応しますので、どうぞ、遠慮なく願います。 | | | | | | |
| 教員との連絡方法 | 大学専用のe-mail でお願います（c-learningではキャッチが遅れることがありますので、ご協力お願いします。） | | | | | | |
| 実務経験のある教員 | 『看護学基礎演習』の科目同様のバックグラウンドをもつ教員が引き続き行う。からへ発展させるため一貫したメソッドで実現できる。学生を継続的にみていけるので、弱点のスクリーニングを可能とし、強化点が一般的でなく個別に対応できる。担当教員が学習支援センター業務を担っているため、講義後もフォローアップを行える体制にある（昨年度利用者数118人）。 | | | | | | |